

ならやまプロジェクトコンセプト

景観グループ

羽尻嵩

景観グループのコンセプトについて述べる前に会全体のことについて意見を述べます。

「ならやま」の里山整備活動は2007年から始まり、最初の数年間は、荒れ地を整備して市民・住民が憩える里山を作るというはっきりした目標があって、みんなで苦労を分かち合い、みんなで楽しみ、考えたりする機会が多かったと思います。

しかし、その後里山の整備が進み、活動の参加者も増えて組織が大きくなり、現在は役割分担が3つのグループに固定化してきて、活動当初に見られたみんなで「ならやま」全体に関わっていく機会が大幅に減ってきていると思います。このことは会全体の課題ですが、景観グループの活動にも関わることなのでここで触れさせていただきました。

さて、景観グループのことに話を戻します。景観グループの作業は、周辺のゴミ拾い、ベースキャンプ全体の草刈りや竹林の整備、彩の森・第5地区・佐保自然の森の草刈り、景観花の育成、BCの流水・池・湿地の整備、里山道のパトロールなど他のグループよりも多岐に渡っています。

このように景観グループの作業分野が特に多岐に渡っているのは、里山整備と農園活動以外の作業を便宜上景観グループにまとめたという面もあり、したがって、全体がまとまって作業をすることはほとんどないというのが現状です。

里山整備の活動は、街中の公園造りやましては個人の家の庭造りの樹木・花・水辺作りとは違って、どのような里山がこの地域にふさわしいのかを、この地域の気候・植生・生態系・風土をグループ全体として探りながら進めていかなければならないと思います。

しかし、組織は分業が進めば進むほど、この点について全員で確認することが少なくなっていくと思います。そして、この会の里山整備の活動もそのようになってきているのではないのでしょうか。

今、景観グループだけではなく、会全体として、この点について考えてみる時期に来ているのではないのでしょうか。

童らの鎌音昂し田の稔り

佐保台ファーム体験学習

里山の水田を復元して早くも6年目を迎えた。佐保台小学校5年1組の児童たちが取り組む総合学習体験も同じく6年目になる。南側半分は佐保台ファーム、北側の半分は会員用である。

6月6日に田植え、7月・9月に生育観察などを体験。10月23日に稲刈りに取り組んだ。鋤鎌の使い方や稲株の持ち方等の諸注意を聞き刈り進む。初めは覚束ない手つきであったが、次第に慣れて会員用の稲も全部刈り終え、稲掛け作業も完了させてくれた。

子どもたちの感想文には、異口同音に米作りに携わる農家の人達のご苦労の程などが綴られていた。一連の水稻栽培学習は、まさしく「百見は一体験に如かず」であったに違いない。

後日、「毎日三度の食事の繰り返しをしていますが、お母さんの愛情のこもった食事に好き嫌いを言ったり、給食を食べ残したりなどしていませんか。お母さんは、可愛い我が子の健やかな成長を願って、また、給食は管理栄養士の方が、バランスやカロリーなどを考えつつメニューを、さらに給食のおばさんたちも衛生管理に心配りをしながら、それぞれのパートで努力をして貰っています。そのようなことを考えますと、好き嫌いを言ったり、食べ残したりなどのわがままは許されないと思います。どうか、多くの人達に感謝の気持ちを忘れないで、学習にスポーツに文化活動に励んでください。」とのメッセージを届けた。

来年も「ならやま」に佐保台っ子の元気な声が響き渡ることでしょう。(鈴木末一)

